

令和2年度(2020年度)用

小学校社会科用

「新しい社会」
知識の構造図
【6年】

令和2年(2020年)2月14日版

東京書籍

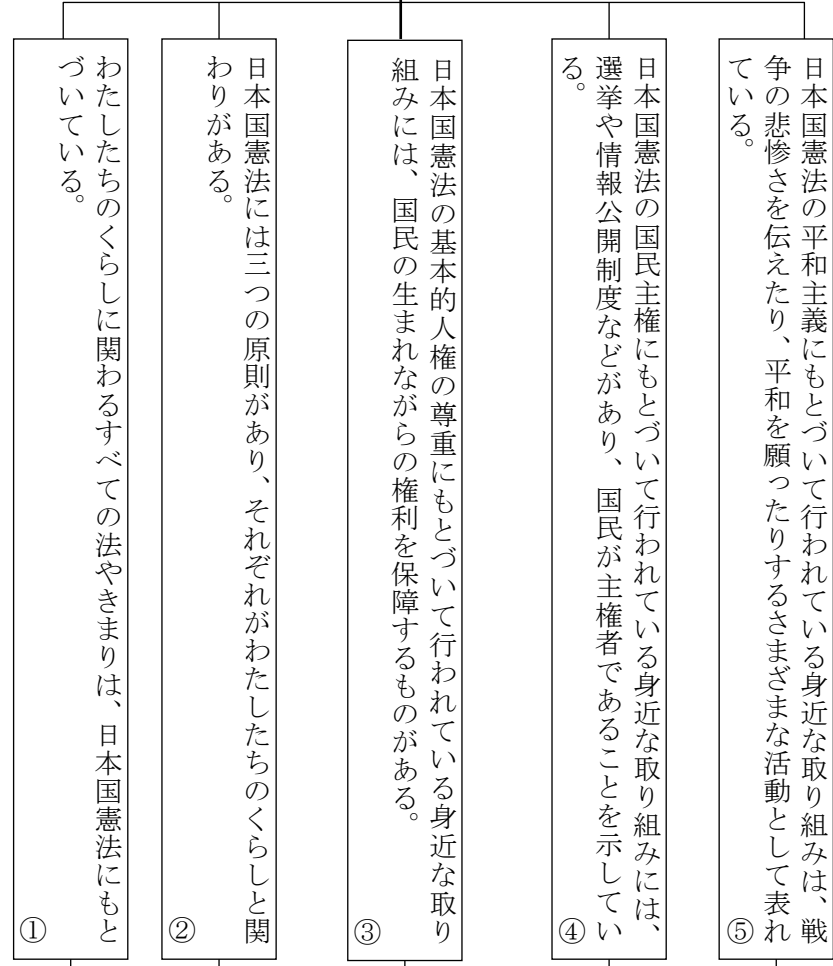
□ 知識の構造図 わたしたちのくらしと日本国憲法

中心概念
(概念的知識)

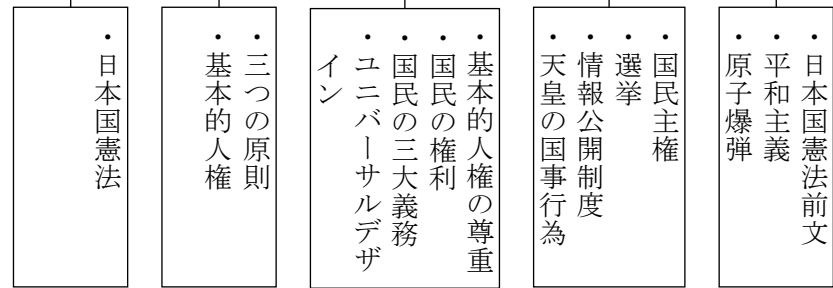
日本国憲法は、国家や国民生活の基本を定めており、我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方にもとづいている。 ⑥

まとめる

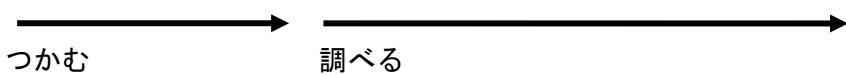
社会的事象
(具体的知識)



用語・語句



問題解決的な
学習の過程



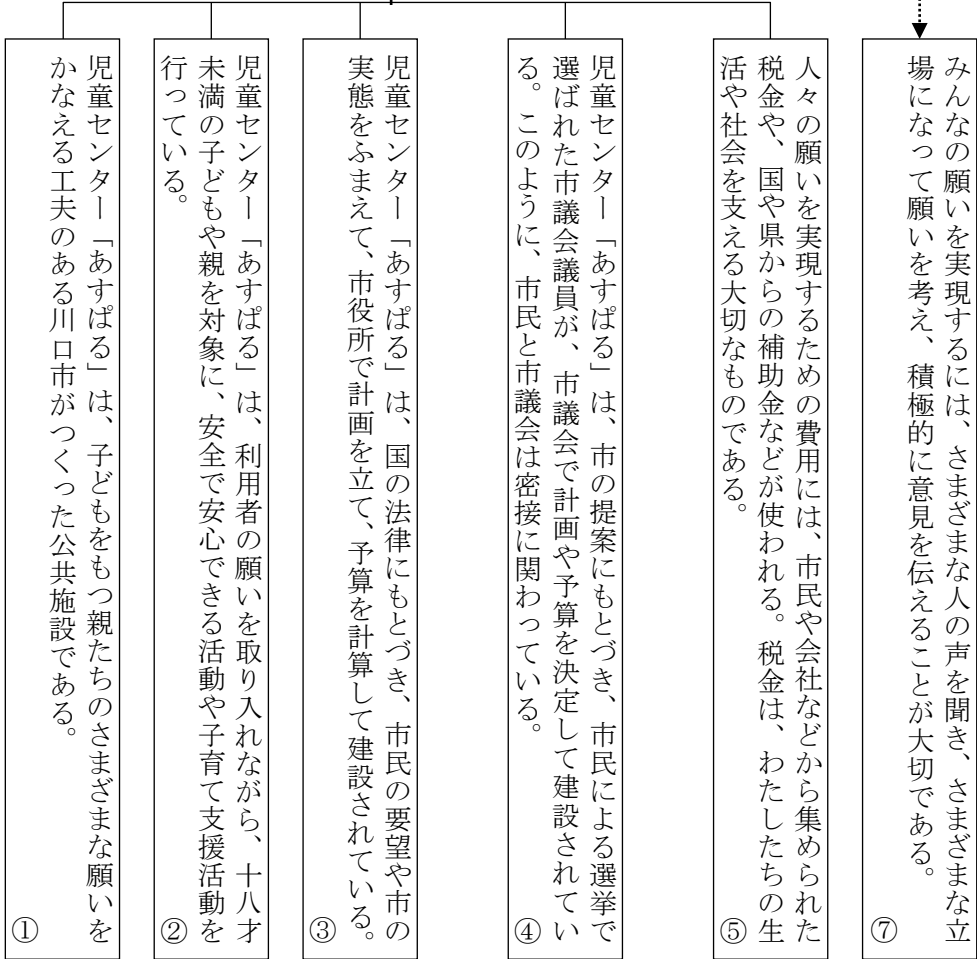
□ 知識の構造図 子育て支援の願いを実現する政治

中心概念
(概念的知識)

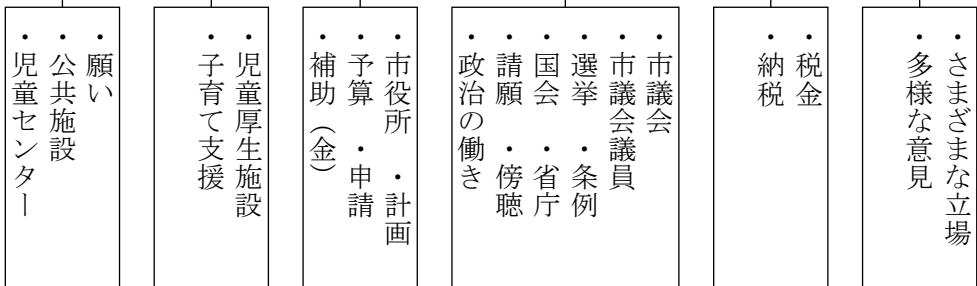
市の政治は、市民の要望をもとに、わたしたちの生活の安定と向上を図る大切な働きをしている。 ⑥

まとめる

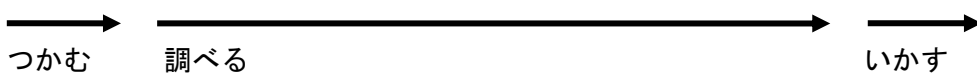
社会的事象
(具体的知識)



用語・語句



問題解決的な
学習の過程



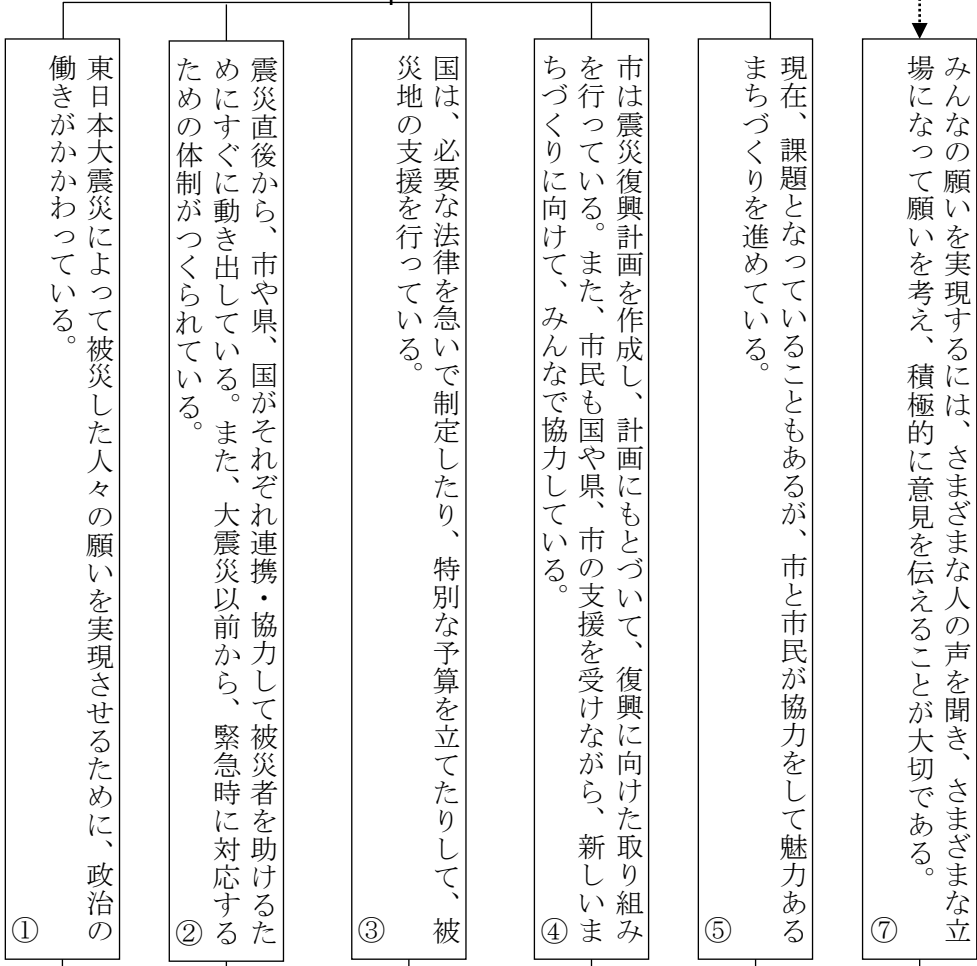
□ 知識の構造図 震災復興の願いを実現する政治

中心概念
(概念的知識)

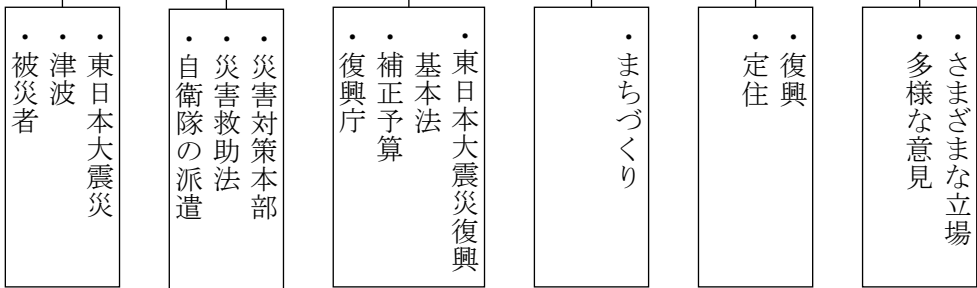
人々の願いを実現するために、国や県、市の政治の働きがかかわっており、それらは、国民の生活の安定と向上を図るために重要な働きをしている。⑥

まとめる

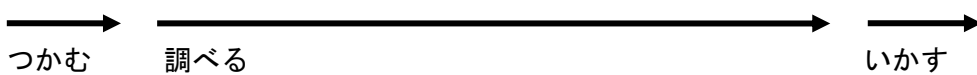
社会的事象
(具体的知識)



用語・語句



問題解決的な
学習の過程



□ 知識の構造図 縄文のむらから古墳のくにへ

中心概念
(概念的知識)

狩猟・採集の生活から、農耕の生活となり、生活や社会の様子は変化した。むらは次第にくにへと発展し、各地に大きな力をもつ豪族が出現し、やがて大和朝廷(大和政権)により国土が統一されていった。⑦

まとめる

社会的事象
(具体的知識)

① 縄文のむらの人々は、協力して狩猟や採集の生活を営み、必要な道具は、石、木、骨などでつくっていた。

② 弥生のむらの人々は、定住して農耕の生活を営み、指導者を中心に共同で米づくりを行っていた。

③ 縄文のむらは、狩りや採集を中心とした生活であり、弥生のむらは、農耕を中心とした生活を行っていた。

④ 米づくりが広がると、力の強いむらが周辺のむらを従え、次第にくにへと発展した。くにを支配する王や豪族は、大陸の技術や文化を取り入れ、くにづくりに役立てた。

⑤ 三〜七世紀には、すぐれた技術者を指図し、多くの人々を働かせて築く、巨大な古墳が各地に現れた。

⑥ 大和地方に、より大きな力を持つ大和朝廷(大和政権)が現れ、五〜六世紀ごろには、九州地方から東北地方南部までの豪族や王を従え、大陸からの文化を積極的に取り入れた。

用語・語句

- ・ 縄文時代
- ・ 縄文土器
- ・ たて穴住居
- ・ 貝塚
- ・ 三内丸山遺跡

- ・ 弥生時代
- ・ 弥生土器
- ・ 石包丁
- ・ 米づくり
- ・ 板付遺跡

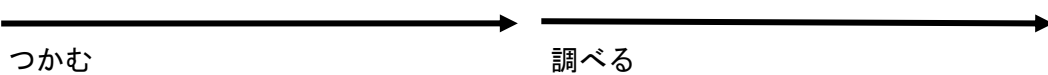
- ・ 青銅器
- ・ 鉄器

- ・ くに
- ・ 王
- ・ 邪馬台国
- ・ 豪族

- ・ はにわ
- ・ 前方後円墳
- ・ 古墳
- ・ 石室
- ・ 仁徳天皇陵古墳(大仙古墳)

- ・ 日本書紀
- ・ 古事記
- ・ 大和朝廷(大和政権)
- ・ 渡来人
- ・ 大王
- ・ 神話

問題解決的な
学習の過程



つかむ

調べる

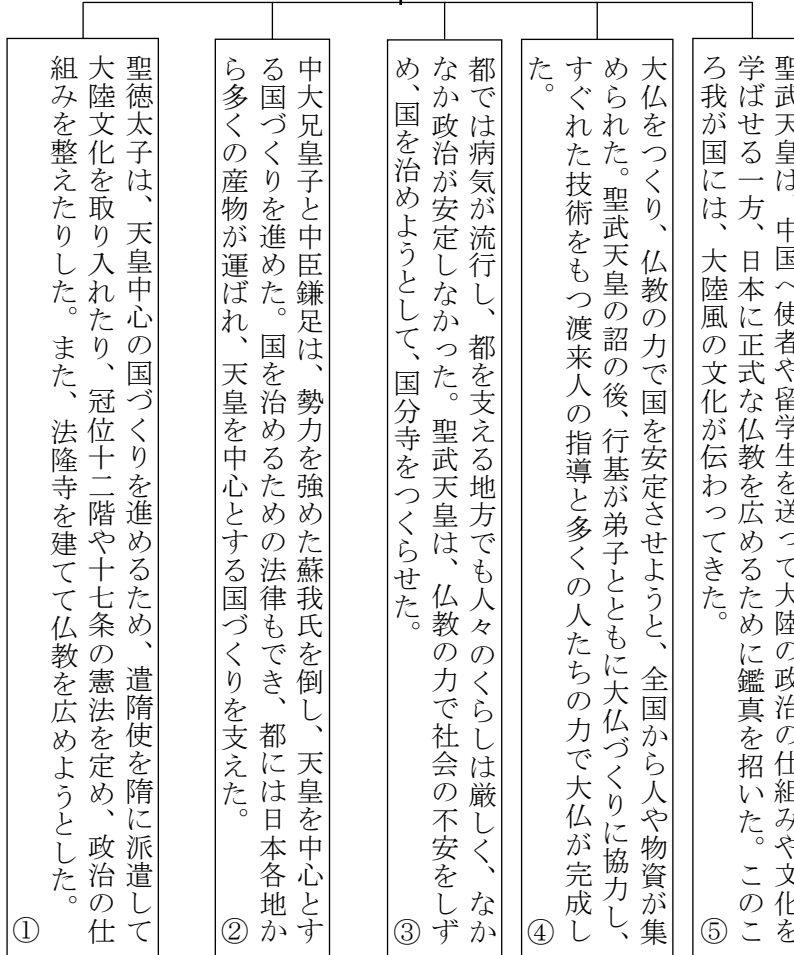
□ 知識の構造図 天皇中心の国づくり

中心概念
(概念的知識)

聖徳太子の国づくりは、中大兄皇子や中臣鎌足によって受け継がれ、聖武天皇のころには、仏教を取り入れた天皇を中心とした政治の仕組みが確立された。 ⑥

まとめる

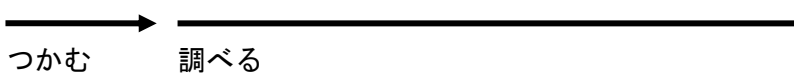
社会的事象
(具体的知識)



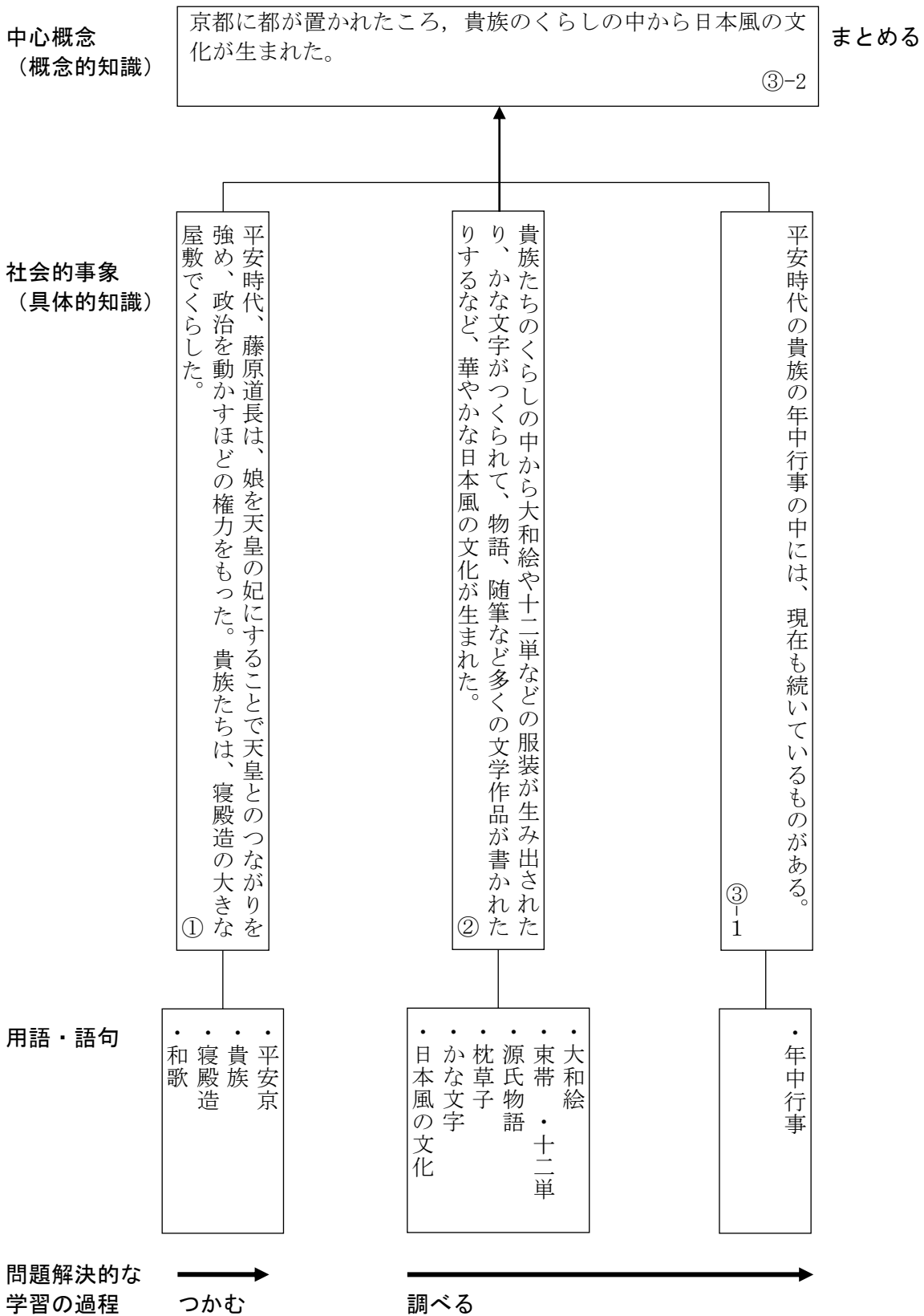
用語・語句

- ① 遣隋使 ・ 隋
- ① 天皇 ・ 冠位十二階
- ① 十七条の憲法
- ② 大化の改新
- ② 貴族
- ② 藤原京 ・ 律令
- ② 租・調・庸
- ② 木簡
- ③ 平城京
- ③ 仏教
- ③ 国分寺
- ④ 聖武天皇の詔
- ④ 東大寺 ・ 渡来人
- ④ 菩薩 ・ 開眼式
- ⑤ 遣唐使 ・ 正倉院
- ⑤ 大陸の文化
- ⑤ 唐招提寺

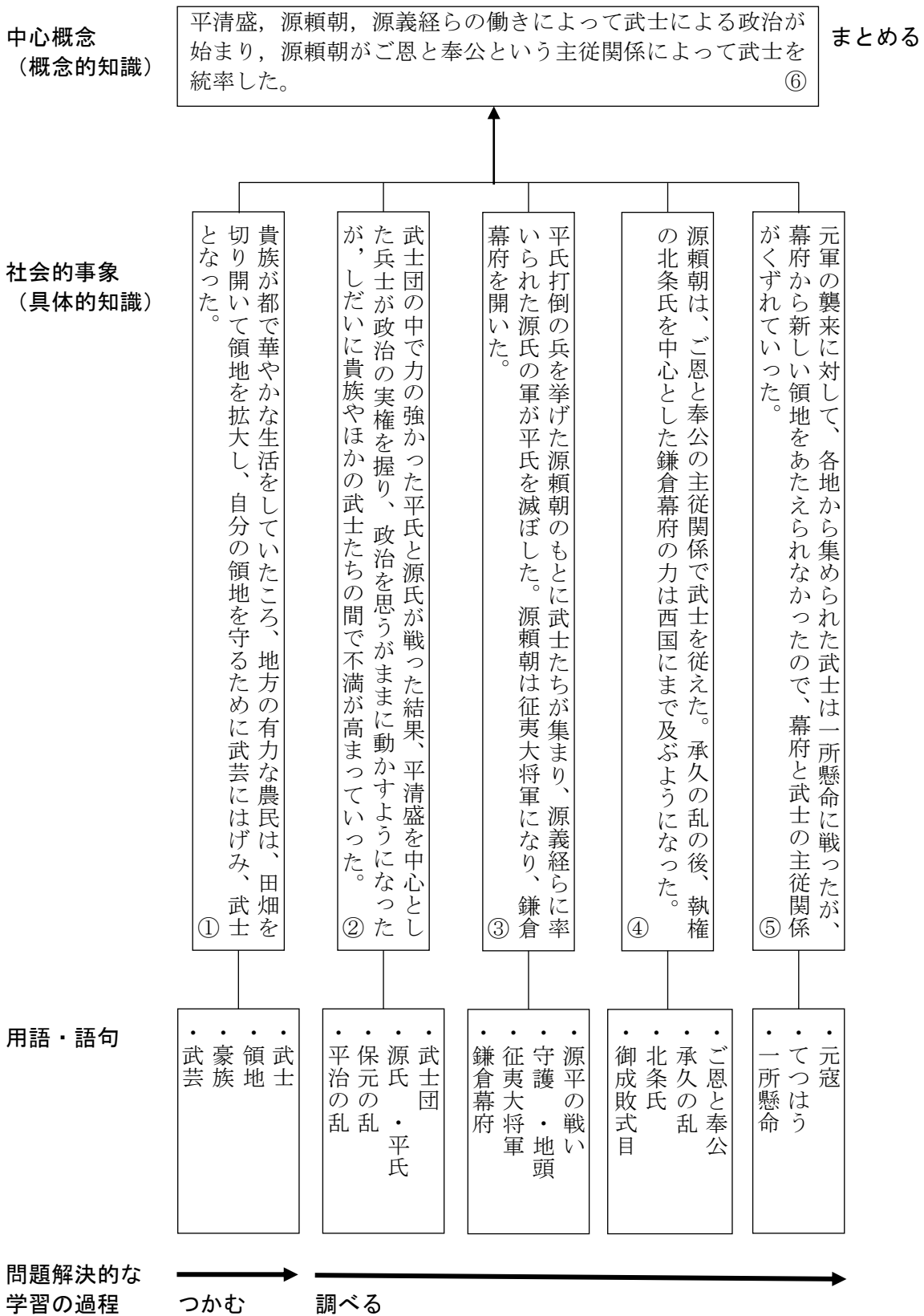
問題解決的な
学習の過程



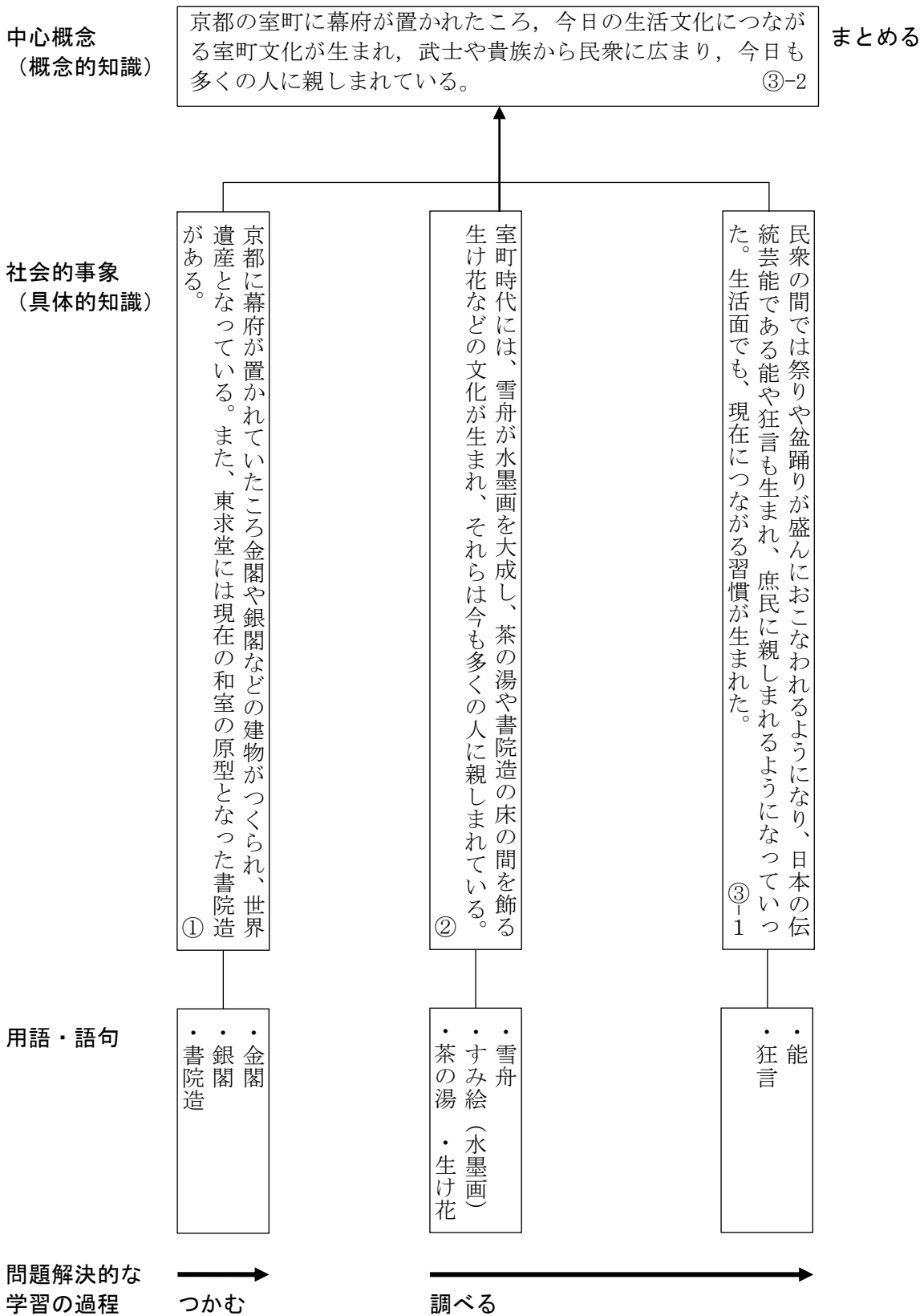
□ 知識の構造図 貴族のくらし



□ 知識の構造図 武士の世の中へ



□ 知識の構造図 今に伝わる室町文化



□ 知識の構造図 戦国の世から天下統一へ

中心概念
(概念的知識)

キリスト教の伝来などの外国との関わりや、織田信長、豊臣秀吉の天下統一に向けた働きによって、戦国の世が統一されていった。 ⑥

まとめる

社会的事象
(具体的知識)

① 室町幕府が衰えると、戦国大名が各地で戦いを続ける戦国の世となり、特に鉄砲を使って長篠の戦いに勝利した織田信長が力を発揮するようになった。

② 織田信長は、豊臣秀吉とともに、天下統一に向けて活躍した。この時代は外国との関わりもあった。

③ ザビエルによってキリスト教が伝えられたり、南蛮貿易でヨーロッパの進んだ文化や品物が入ってきたりするなど、外国との関わりが日本にさまざまな影響をあたえた。

④ 織田信長は、商業都市をおさえて資金を蓄え、鉄砲などの武器をそろえて有力な大名を倒して勢力を拡大した。そして、安土城を築いたり商業を盛んにしたりして天下統一を進めていった。

⑤ 豊臣秀吉は、全国の有力な大名を倒して大阪城を築き、検地と刀狩によって武士と百姓・町人の身分を区別し、武士が世の中を支配する仕組みをつくって天下を統一した。

用語・語句

- ・ 戦国の世
- ・ 戦国大名
- ・ 長篠の戦い
- ・ 鉄砲

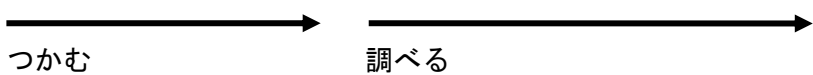
- ・ 天下統一
- ・ キリスト教

- ・ キリスト教
- ・ 南蛮貿易

- ・ 安土城
- ・ 楽市・楽座

- ・ 大阪城
- ・ 検地
- ・ 刀狩

問題解決的な
学習の過程



つかむ

調べる

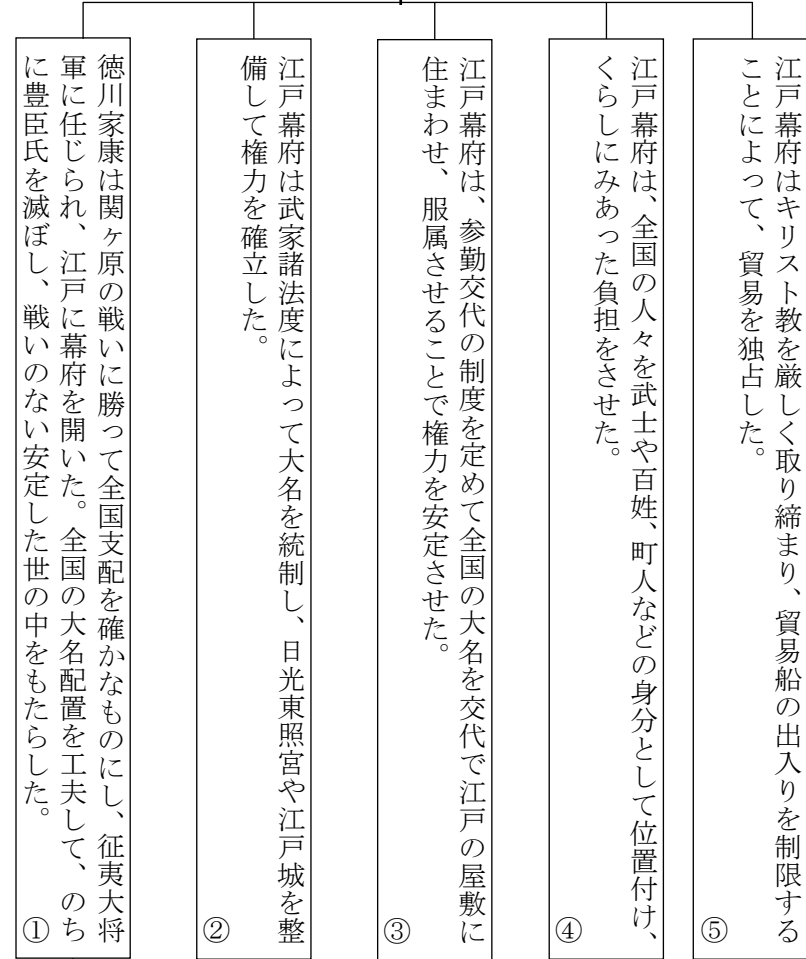
□ 知識の構造図 江戸幕府と政治の安定

中心概念
(概念的知識)

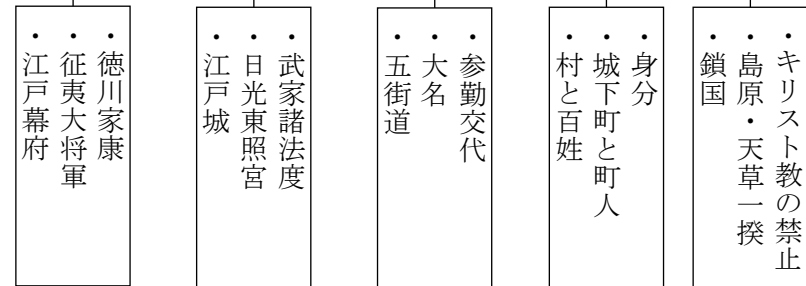
徳川家康が開いた江戸幕府は、武家諸法度により大名を統制し、参勤交代の制度や外交のありかたをさだめて将軍権力を確立し、身分制に基づいて、武士による安定した政治を行うようになった。⑥

まとめる

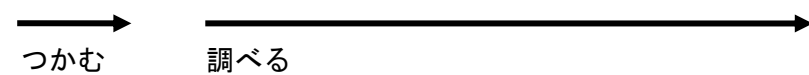
社会的事象
(具体的知識)



用語・語句



問題解決的な
学習の過程



□ 知識の構造図 町人の文化と新しい学問

中心概念
(概念的知識)

江戸時代中ごろから、江戸や大阪などの都市を中心として、歌舞伎や浮世絵などに代表される町人文化が展開し、多くの人々の心をとらえると同時に、蘭学や国学などの新しい学問が生まれ、多くの人々の間に広がった。⑤

まとめる

社会的事象
(具体的知識)

江戸時代に入ると平和が続く、社会が安定するにもなって、江戸や大阪といった大都市がにぎわい、新しい学問や文化が発展するようになった。①

人々は歌舞伎や人形浄瑠璃、浮世絵に親しみ、近松門左衛門や歌川広重のようなすぐれた作者が登場した。②

江戸時代の後半になると、杉田玄白や伊能忠敬といった優れた学者が活躍し、医学や測量学などの蘭学が生まれ、多くの人々の間に広がった。③

江戸時代の後半、本居宣長のような優れた学者が現れ、日本古来の思想を学ぼうとする国学が生まれ、多くの人々の間に広がった。このころきんなど社会が不安定となり、百姓一揆や打ちこわしが各地で発生した。④

用語・語句

- ・ 江戸
- ・ 大阪
- ・ 文化

- ・ 近松門左衛門
- ・ 歌舞伎
- ・ 歌川広重
- ・ 浮世絵

- ・ 蘭学
- ・ 杉田玄白
- ・ 伊能忠敬

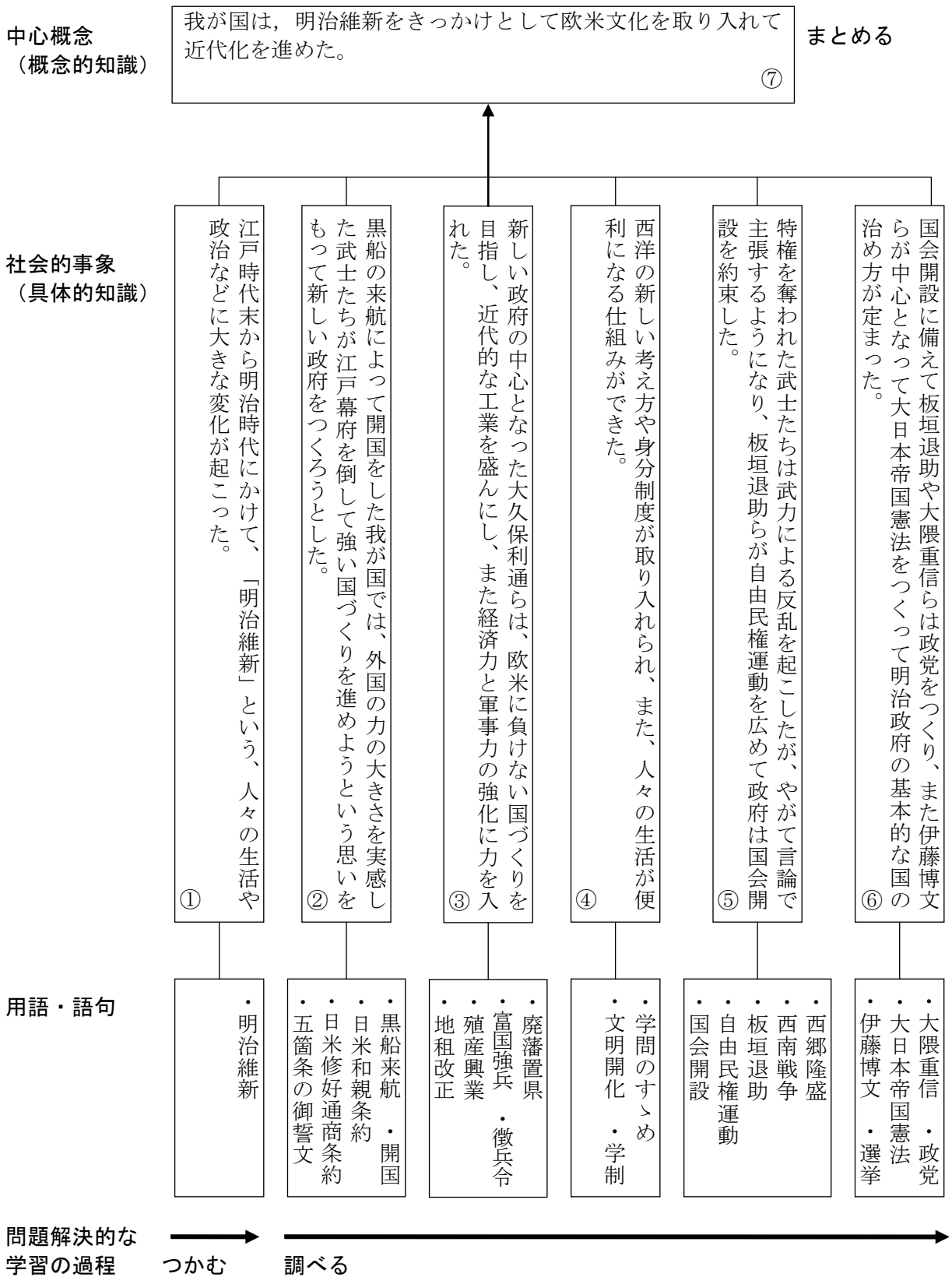
- ・ 国学
- ・ 本居宣長
- ・ 百姓一揆
- ・ 打ちこわし

問題解決的な
学習の過程

→
つかむ

→
調べる

□ 知識の構造図 明治の国づくりを進めた人々



□ 知識の構造図 世界に歩み出した日本

中心概念
(概念的知識)

我が国の産業や科学・文化の発展と国力の充実とともに、日清・日露戦争に勝利し、国際的地位が向上したことで条約改正が達成されたが、他方で、産業の発展は人々の生活や社会に大きな変化をもたらした。⑥

まとめる

社会的事象
(具体的知識)

① 日本の産業を発展させるためには、幕末に欧米諸国と結んだ不平等条約の改正が必要だった。不平等条約を改正するためには、日本の産業を展させる必要があった。

② 明治政府の殖産興業政策によって大きな工場が作られ、工業が盛んになってきた。そのような中で、陸奥宗光が領事裁判権の撤廃に成功した。

③ 朝鮮半島や満州の支配をめぐって日清戦争・日露戦争が起こった。日本の勝利は欧米諸国に日本の力を認めさせ、アジアの国々を勇気づけることになった。

④ 日本は植民地への支配を強めたが、朝鮮の人々は独立運動を粘り強く続けた。小村寿太郎が関税自主権の回復に成功し、欧米諸国と対等な関係を築いた。そして、医学などの研究で世界に認められる学者が現れ、日本の国際的地位の向上に貢献した。

⑤ 産業が発展し、都市化が進む一方で、さまざまな社会問題が起きた。また、人々の民主主義への意識が高まり、普通選挙や女性の地位向上、差別撤廃を目指す運動が起こった。

用語・語句

- ・ 条約改正
- ・ 鹿鳴館
- ・ 関税自主権
- ・ 領事裁判権
- ・ ノルマントン号事件

- ・ 殖産興業
- ・ 紡績業
- ・ 製糸業
- ・ 欧米諸国

- ・ 日清戦争
- ・ 日露戦争
- ・ 賠償金
- ・ 植民地
- ・ 満州

- ・ 韓国併合
- ・ 独立運動
- ・ 関税自主権の回復
- ・ 科学の発展
- ・ 国際的地位の向上

- ・ 足尾銅山
- ・ 民主主義
- ・ 普通選挙
- ・ 女性の地位向上
- ・ 全国水平社

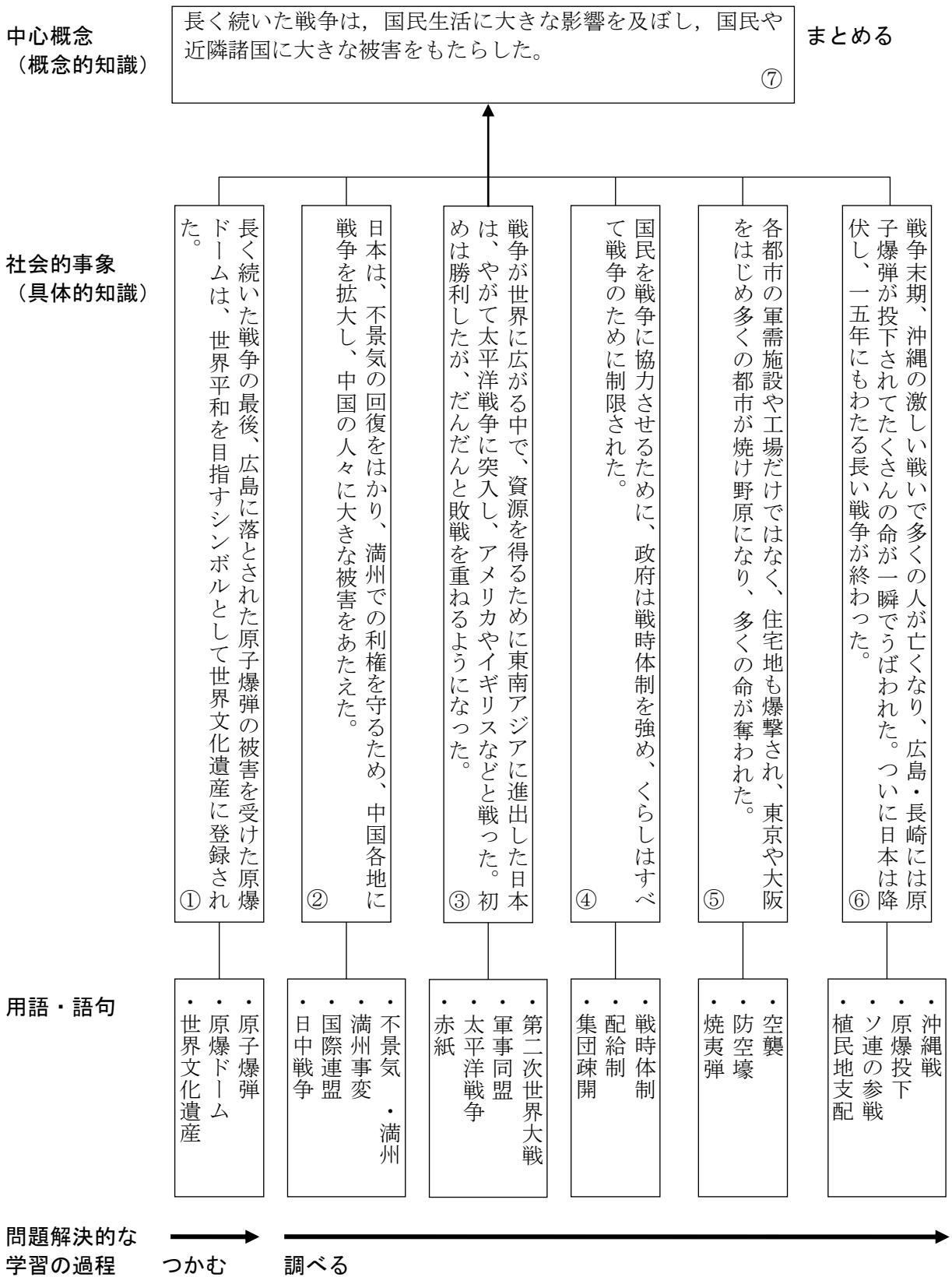
問題解決的な
学習の過程

つかむ

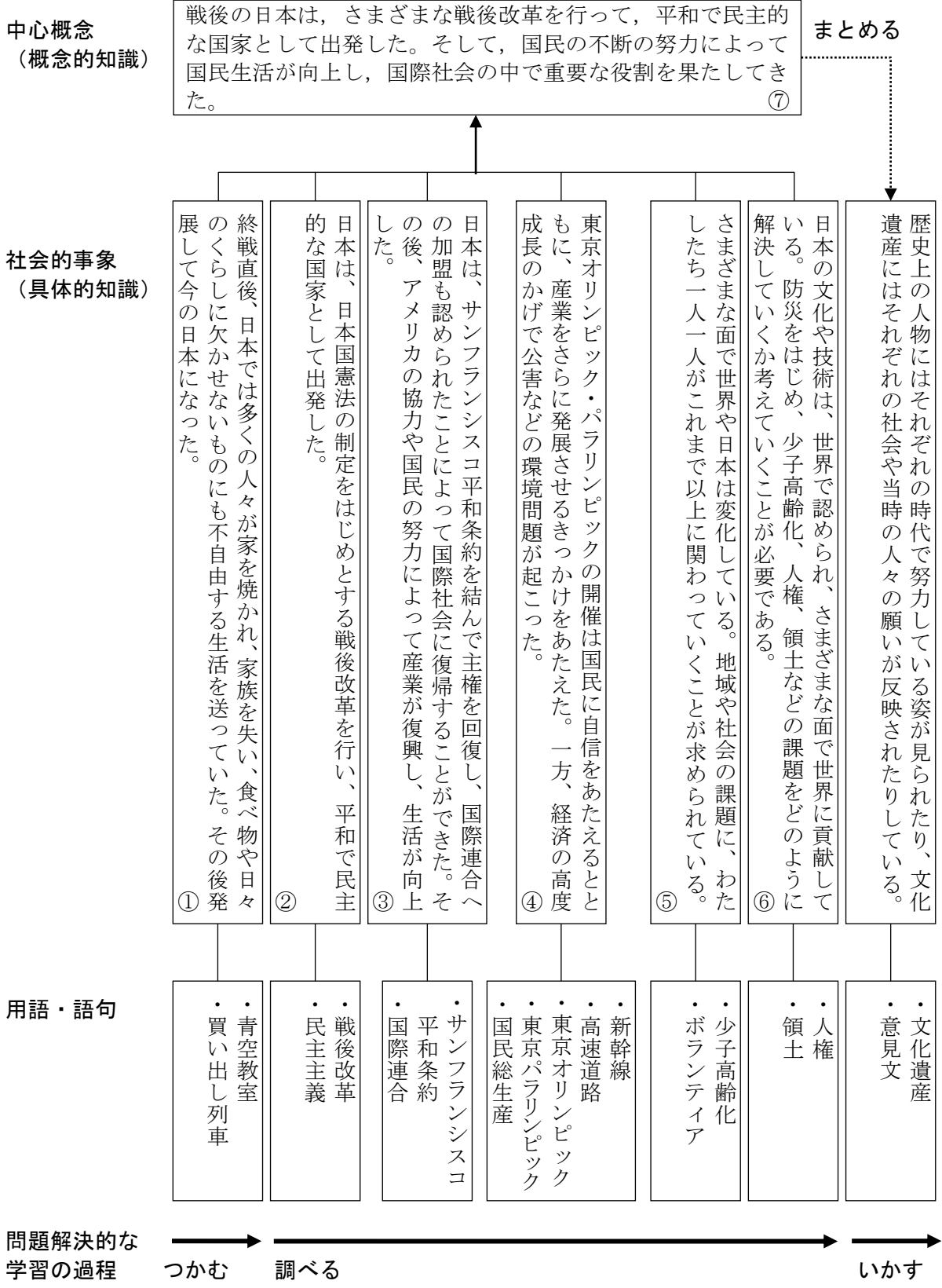
調べる



□ 知識の構造図 長く続いた戦争と人々の暮らし



□ 知識の構造図 新しい日本, 平和な日本へ



□ 知識の構造図 日本とつながりの深い国々

中心概念
(概念的知識)

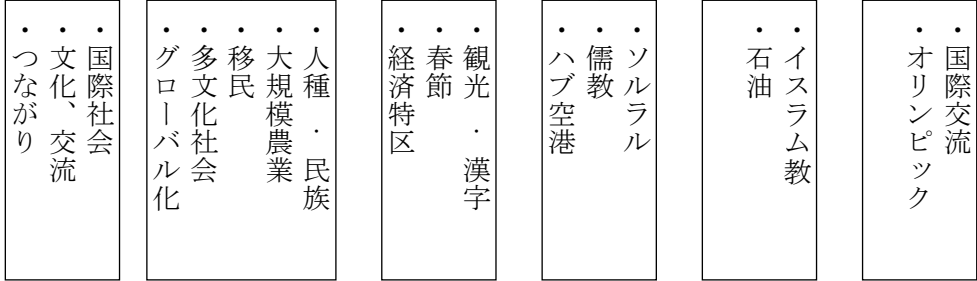
日本とつながりの深い国々は、それぞれに特色がある文化やスポーツ、習慣があり、お互いにそのちがいを認めることが大切である。⑥

まとめる

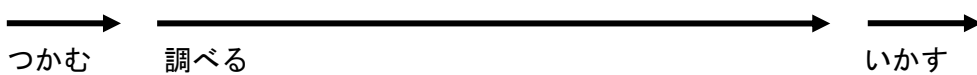
社会的事象
(具体的知識)



用語・語句



問題解決的な
学習の過程



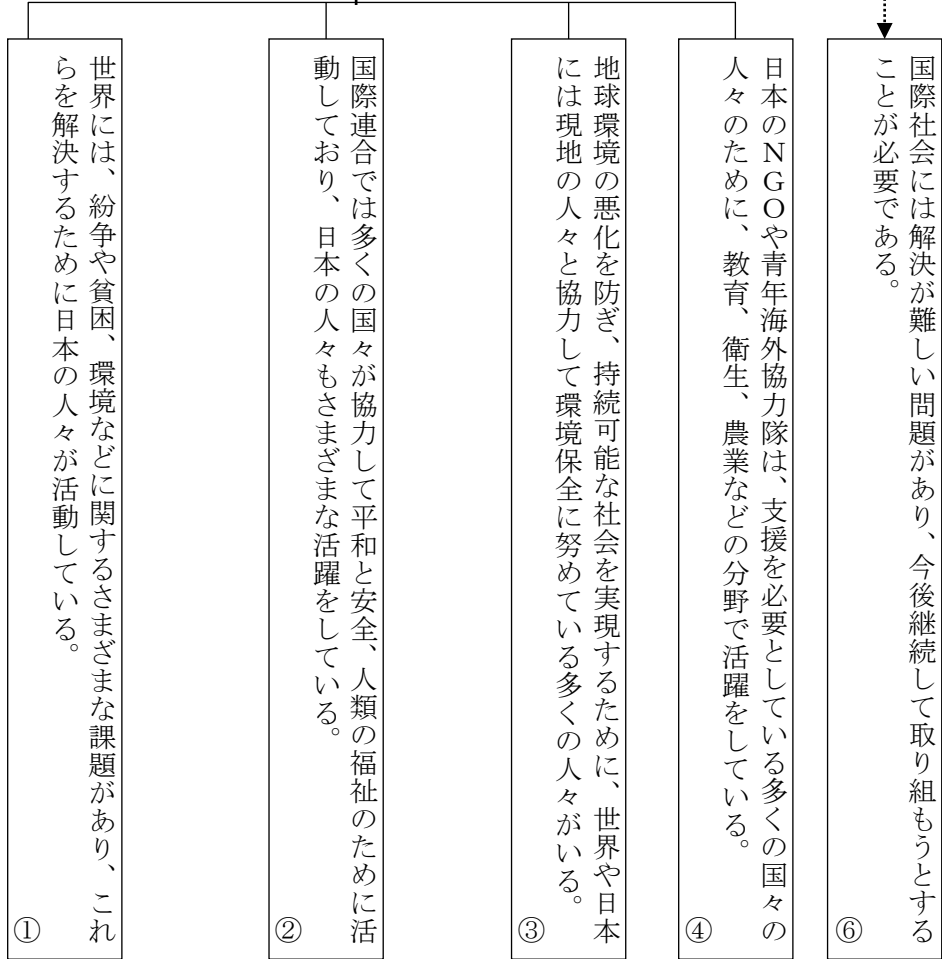
□ 知識の構造図 世界の未来と日本の役割

中心概念
(概念的知識)

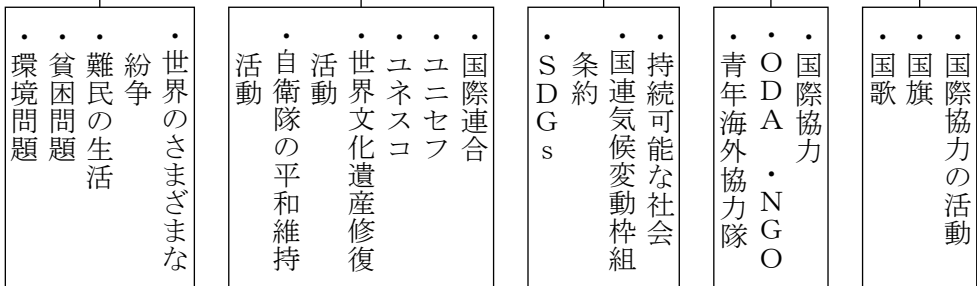
世界には解決すべき課題がいくつもあり、日本の人々はこれらを解決するために国際連合や青年海外協力隊、NGOなどの活動を通して積極的に世界の平和と発展に貢献している。⑤

まとめる

社会的事象
(具体的知識)



用語・語句



問題解決的な
学習の過程

